徳島新聞 2026年11月12日 木曜日 面名 地域3 第1版 21ページ



スギの苗木に食害防止カバーを取り付ける参加者＝三好市山城町瀬貝

阿波の藍商ルーツの企業

スギ苗木210本植樹

三好で森づくり事業

阿波の藍商をルーツとする自動車部品メーカー・化学品商社の森六（東京）の社員らが、三好市山城町瀬貝の山林に、花粉の少ない品種のスギの苗木約210本を植樹した。徳島森林づくり推進機構と県、企業などが連携して進める「とくしま協働の森づくり事業」の一環。

同社をはじめ、福岡県や香川県にあるグループ会社の社員、機構職員ら37人が参加。「IN徳島 森六の森」と名付けた敷地の一角（約0・3ヘクタール）の斜面につるはしで穴を開け、約50センチの苗木を植え付けた。シカの食害を防ぐため、苗木に筒状のネットをかぶせた。

同社の県内での植樹は2024年に続いて2度目で、計12ヘクタールで森づくりに取り組んでいる。

伴野裕美執行役員（サステナビリティ担当）は「自動車関連はCO2排出量が多い事業で、工場でも削減を進めている。森づくりを通して環境意識の向上につながったと思う」と話した。10月21日にあった。（佐藤陽香）

(C)徳島新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

掲載内容(画像・文章等)の一部及び全てについて、無断で複製、転載、転用、改変等を禁じます。